

令和4年度 岐阜市障害者総合支援協議会 第1回全体会 議事要旨

令和4年4月27日(水) 15:00~17:00

市役所6-3会議室・オンライン(Zoom)併用

1. 障がい福祉課長あいさつ

2. 委嘱状交付、委員紹介

- ・交代した2名の委員に委嘱状を事前に送付
- ・委員紹介

3. 令和4年度 全体会・専門部会(上半期)計画

- ・全体会・専門部会(上半期)の日時及び内容について(資料1-1)
- ・協議会における評価の流れについて(資料1-2)

<意見>

- ・第3回専門部会「強度行動障がいについて」(国立のぞみの園 講師による研修)には、委員も出席できるか。
→委員も出席することができる。

4. 基幹相談支援事業の実績の検証について

- ・岐阜市基幹相談支援事業の実績の検証について説明(資料2)
- ・令和3年度 岐阜市基幹相談支援事業 事業報告について説明(資料3)
- ・令和3年度 岐阜市基幹相談支援事業【運営評価シート】について説明(資料4)

<資料3に関して質問、意見>

- ・相談すべき基幹相談支援サテライト(以下、サテライト)をどのようにして知れば良いか。
また、担当でなくても距離が近いサテライトを優先しても良いか。
→相談者から連絡を受けたサテライトから該当のサテライトを案内できる。該当のサテライトへのアクセスが難しい場合に、連絡すればサテライトから訪問することもできる。
- ・新規事業所の中には営利目的が中心の事業所も見られるため、そうした事業所もサービス提供事業所としての機能を十分に発揮できるように、指導・援助していけると良い。
- ・サテライトによっては、「障害者等に対する虐待を防止するための取組」件数が他のサテライトよりも多いのはなぜか。他のサテライトも同様にできれば、地域全体で虐待に関する意識が高まっていくと思う。
→市に寄せられた相談に対し、ケース会議への出席等でサテライトと連携した場合に、各サテライトから計上されている件数であり、令和3年度においては当該サテライトのエリアにおけるケースに対する支援が多かった。
- ・資料中のサテライト名がアルファベット表記であるのはなぜか。
→特定のサテライトの評価ではなく、岐阜市基幹相談支援事業としての評価をいただくために、今回はサテライト名を伏せている。
- ・各サテライトにエリアごとでどのような相談があるのかイメージできると良い。
→サテライトごとの相談内容の傾向は十分に分析できておらず、今後の課題と考えている。

- ・サテライトの職員が増えれば、相談件数も増える可能性があるか。現在の人員体制で余裕があるのか。
 - 職員が増えれば、業務の幅は広がると思われるが、相談件数も増えるかはわからない。現在の人員体制で対応しきれないということはない。
- ・訪問による支援は重要であるため、どのサテライトも訪問による支援の件数が増えるような人員確保が必要だと感じた。
 - 訪問による支援に対して消極的な相談者もいるため、相談者の特性に合わせて柔軟に対応していきたい。

<資料4 に関して質問、意見>

- ・基幹相談支援センターとサテライトを合わせた評価をすれば良いか。また、サテライトごとに相談件数の差があることも考慮すべきか。
 - 基幹相談支援センターとサテライトを合わせた評価をお願いしたい。サテライトごとの相談件数の差については、基幹相談支援事業として十分に取り組めていない項目として評価していただきたい。
- ・民生委員が障がいのある人の相談で困ることもあると思われるため、民生委員の会議にもサテライトを周知していけると良い。
- ・地域包括支援センターとは頻繁に関わりがあるが、サテライトとは直接関わったことがない。
 - 基幹相談支援事業として、地域づくりをしていくために、民生委員と地域包括支援センターの連携のように、サテライトも介入していく必要があると考えている。
- ・障がいについて知らないことが多く、評価シートを基にした評価が難しい。
- ・評価シートの内容だけでなく、サテライトによるアピールポイントやうまくいかなかった点の報告があると評価しやすい。
 - 相談者が相談しやすくなる工夫をしてきた。サテライトのみで対応しきれないことも多かったが、関係機関との連携の機会は増えてきている。
 - ケアマネジャーと相談支援専門員の連携体制づくりのための企画をしたが、令和3年度は感染拡大防止対策のため実施を見送った。今後そうした機会を改めて持ちながら、支援体制を整えていきたい。
 - 新規の事業所には積極的に訪問し、状況把握に努めた。障害者支援施設や精神科病院に訪問し、地域移行について普及啓発するとともに、利用者と相談支援専門員への支援もできたことが良かった。
 - 相談支援事業者や地域包括支援センターとの連携体制はできてきたが、民生委員との関わりは不十分であるため、今後の連携について考え、地域づくりに活かしたい。